

GPA 制度を導入している大学の例

(国立大学)

○ 筑波大学

情報学類・工学システム学類においては、グレード・ポイント（以下 GP）を A(3)、B(2)、C(1)と設定し、大学院推薦入試の参考としている。

工学基礎学類においては、GP を A(3)、B(2)、C(1)、D(0)と設定し、専攻進級の参考としている。

○ 岐阜大学

教育学部において、グレード・ポイント（以下 GP）を㉠(4)、A(3)、B(2)、C(1)、D(0)と設定し、前学期の成績を基に算出された GPA 値の結果によって今学期の履修科目上限単位数が決定される。GPA 値が高いほど、上限単位数は増加する。なお、㉠は全体の 5%以内としている。

(公立大学)

○ 青森公立大学

経営経済学部において、GP を A(4)、B(3)、C(2)、D(1)、F(0)と設定し、累積 2.0 以上が卒業判定に、3 セメスター連続で 2.0 以下が退学勧告になっている。

(私立大学)

○ 共立薬科大学

薬学部において、GP を A(9.8.7)、B(6)、C(5)、D(4.3.2.1)、E(0)と設定し、通算 5、0 以上を卒業判定としている。他に、大学院推薦入試、就職推薦、卒論配属の参考としている。

○ 早稲田大学

商学部において、GP を（優）3、優 3、良 1、可 0、不可 - 1 と設定し、大学院推薦入試、総代選出、各種選抜、入学区分別成績統計の参考としている。

○ 金沢工業大学

工学部において、GP を S(4)、A(3)、B(2)、C(1)、D(0)と設定し、結果を学籍簿に記入し、修学・進学・就職指導に利用している。

※ GPA 制度

米国において一般的に行われている学生の成績評価方法の一種で、授業科目ごとの成績評価を 5 段階（A、B、C、D、E）で評価し、それぞれに対して、4・3・2・1・0 のようにグレード・ポイントを付与し、この単位あたりの平均を出して、評価する制度。